



日本山海名物圖會
四

~~P
283
4~~

道通文庫
文庫6
2154
4

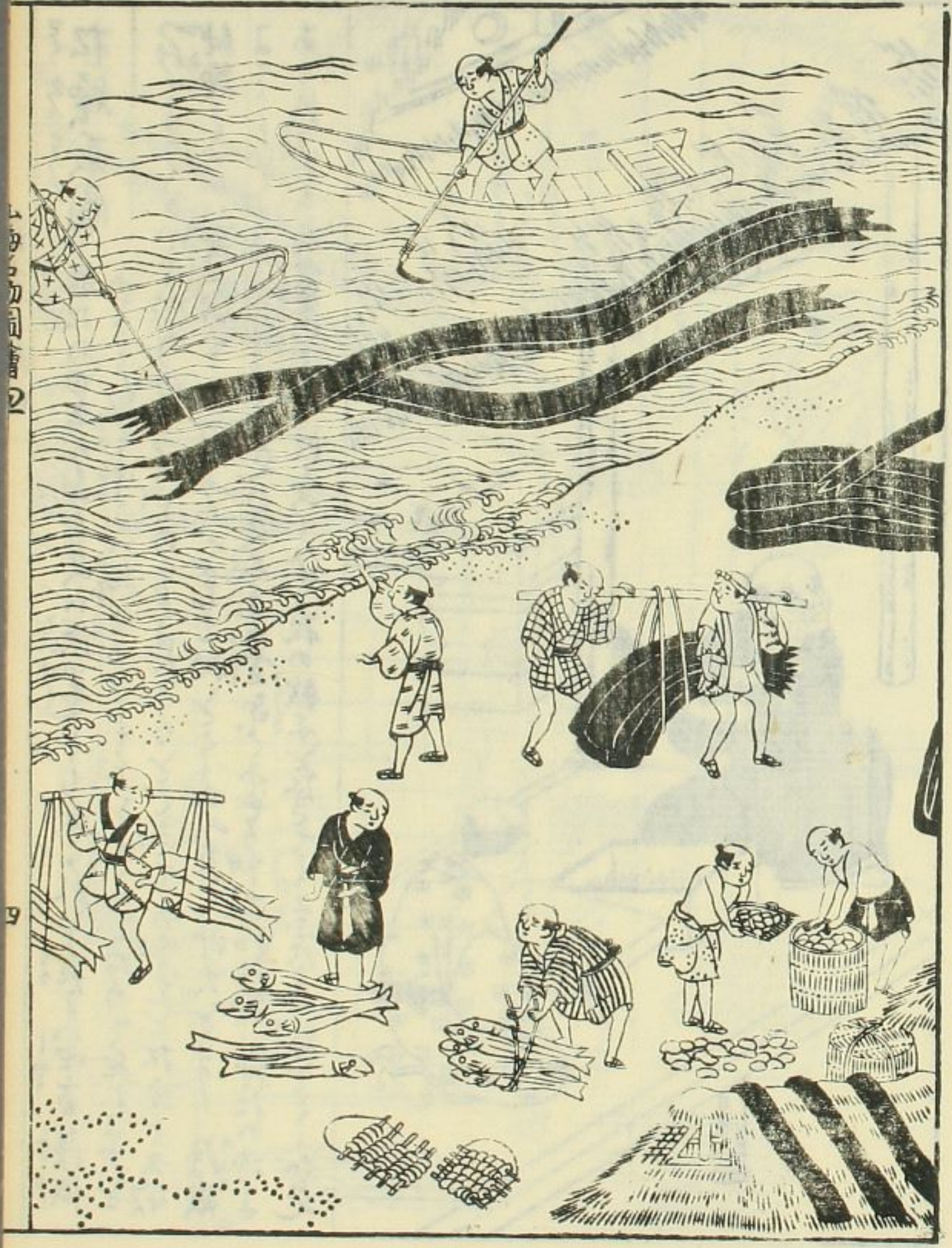


いよご
作豚牛房

ふろししてまきずーとまてハ之ハ人むらり牛房のまきおし城州
 八橋牛房名おひてまきおしーといふらりまてハ作子
 牛房よ及びの牛房のまきとまか子とまねなく作あまきまて一粒のめハ
 五米とありのにはまてまきとまねとま中華ハ牛房のまき苗のまきと
 まねてまねハ人まきとまねとまきまてまきまてまきまてまきまてまきまて
 まねてまねハ人まきとまねとまきまてまきまてまきまてまきまてまきまて

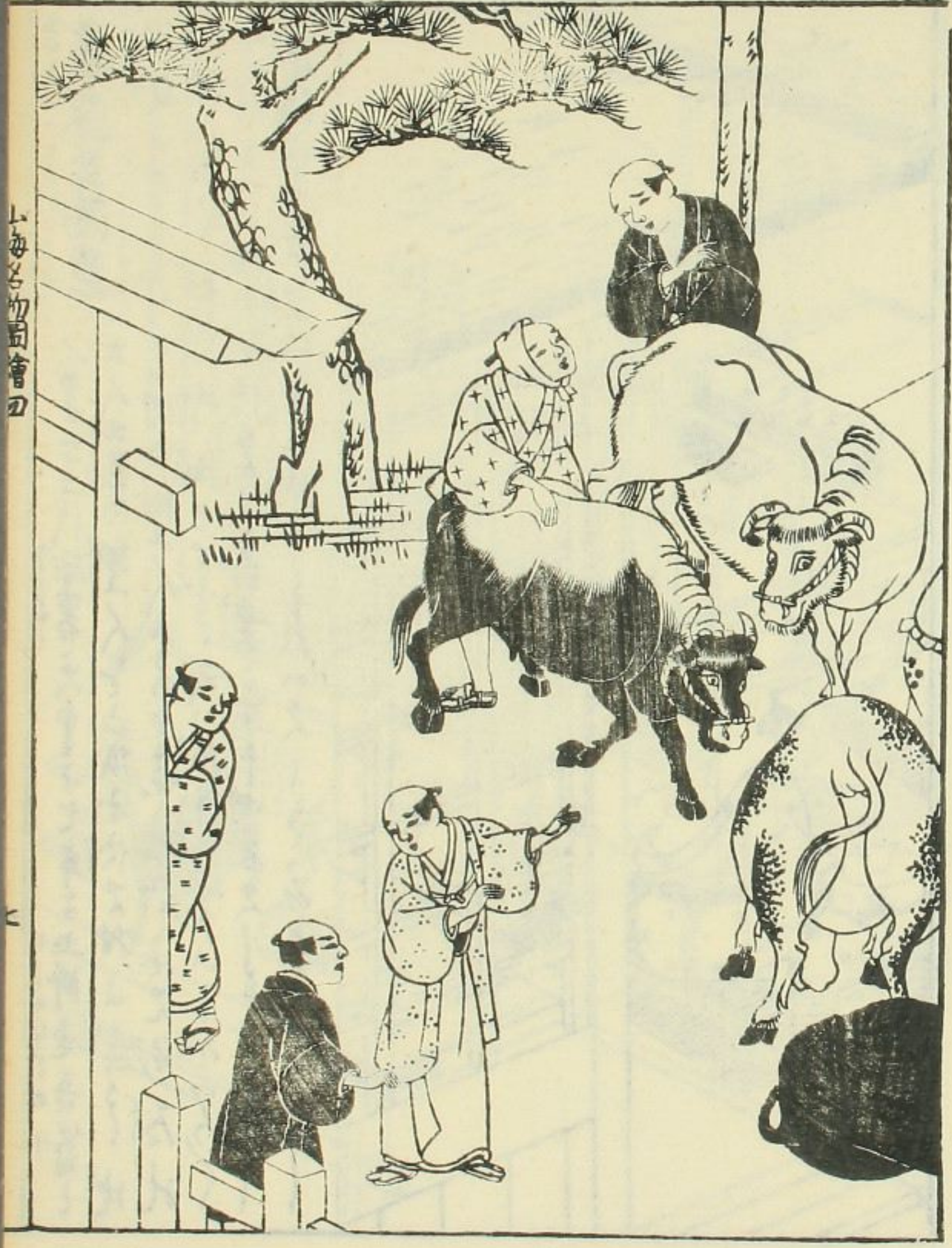


假使項羽の
 かりりもまき
 かくて牛房
 ぬまき



松前昆布

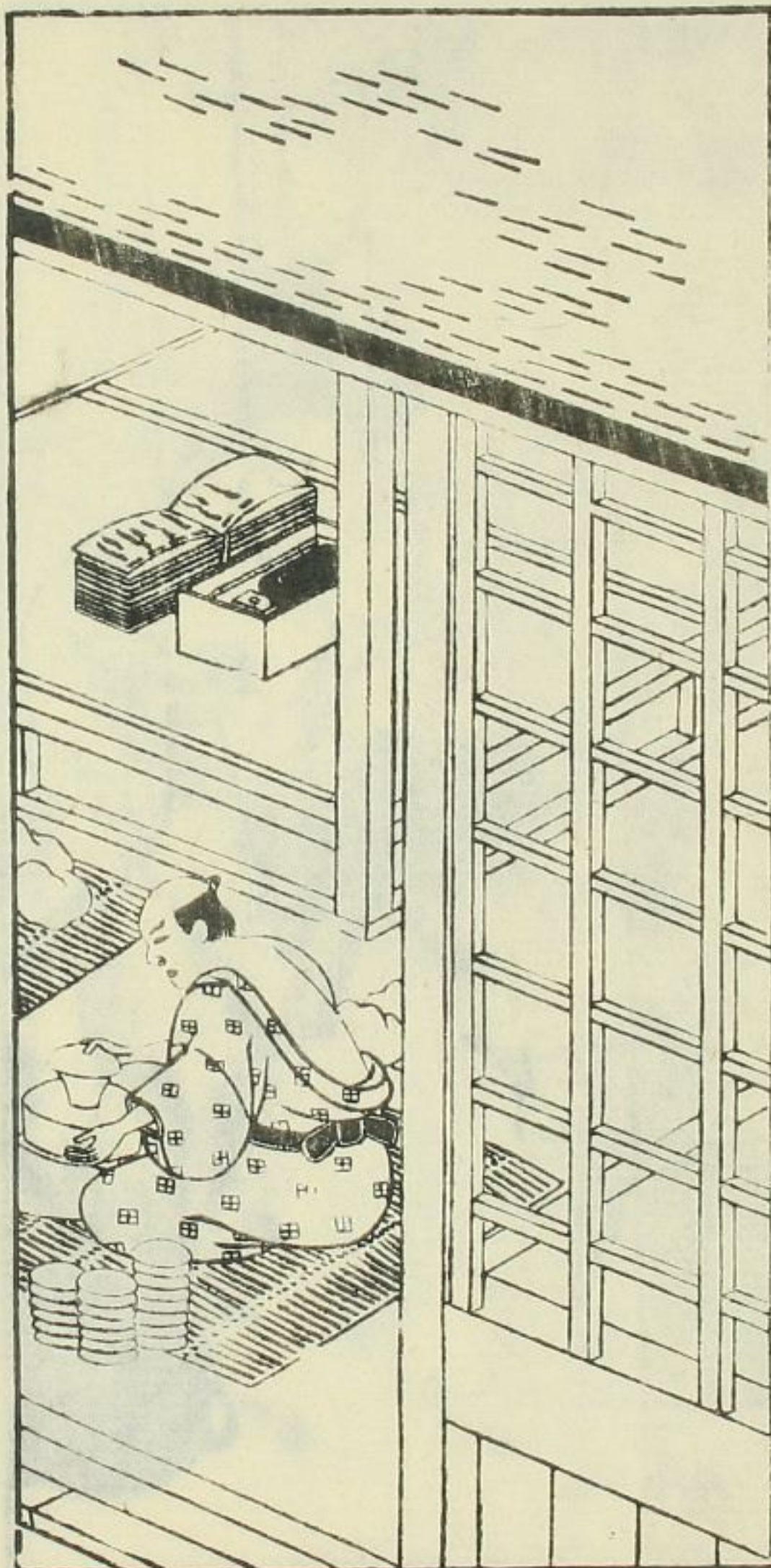
真川の海中の石よつきて生んば長き糸也海の上
 うづびぬるとは柄の漁よておもう是と切ておろけ
 人家のや糸よちすく又家のや糸と昆布よてもやて。若狭昆布
 こゝこれ海より出るよわくばおろけつてあまてこゝらへて賣之
 名あともあり。乾鰯干海産串鮑



天王寺牛會



天王寺牛會
 彼の儀中のふいふ牛を知てはと春は川にれと大坂をまよ
 ぶかろのまよも孫ちろと云老牛市のつとありは人の
 祝歌ふたれは儀中も愛買すつとくしつとく年の中儀中の儀中より牛を引
 舟のつと日くよたえは毎年お正月、牛市つとくこの百姓らひくこ
 牛と引舟つとくよたえは交易愛買とこれと牛博常と云ふて牛と愛買よ
 藝辰おまの肉はよよ牛よまよとまよとまよとまよと愛買の儀中とするや



東洋草陶器

人皇三十二代敏達天皇十七年玉師連吾角と
 去人土器の御工人と云城玉伏人相よと云るは
 日本書紀に云る所の御工人の御工人の御工人
 去あといくは御工人の御工人の御工人の御工人
 の人取つといふと云る所の御工人の御工人の御工人
 御工人の御工人の御工人の御工人の御工人の御工人



有馬竹細工

ありま竹細工

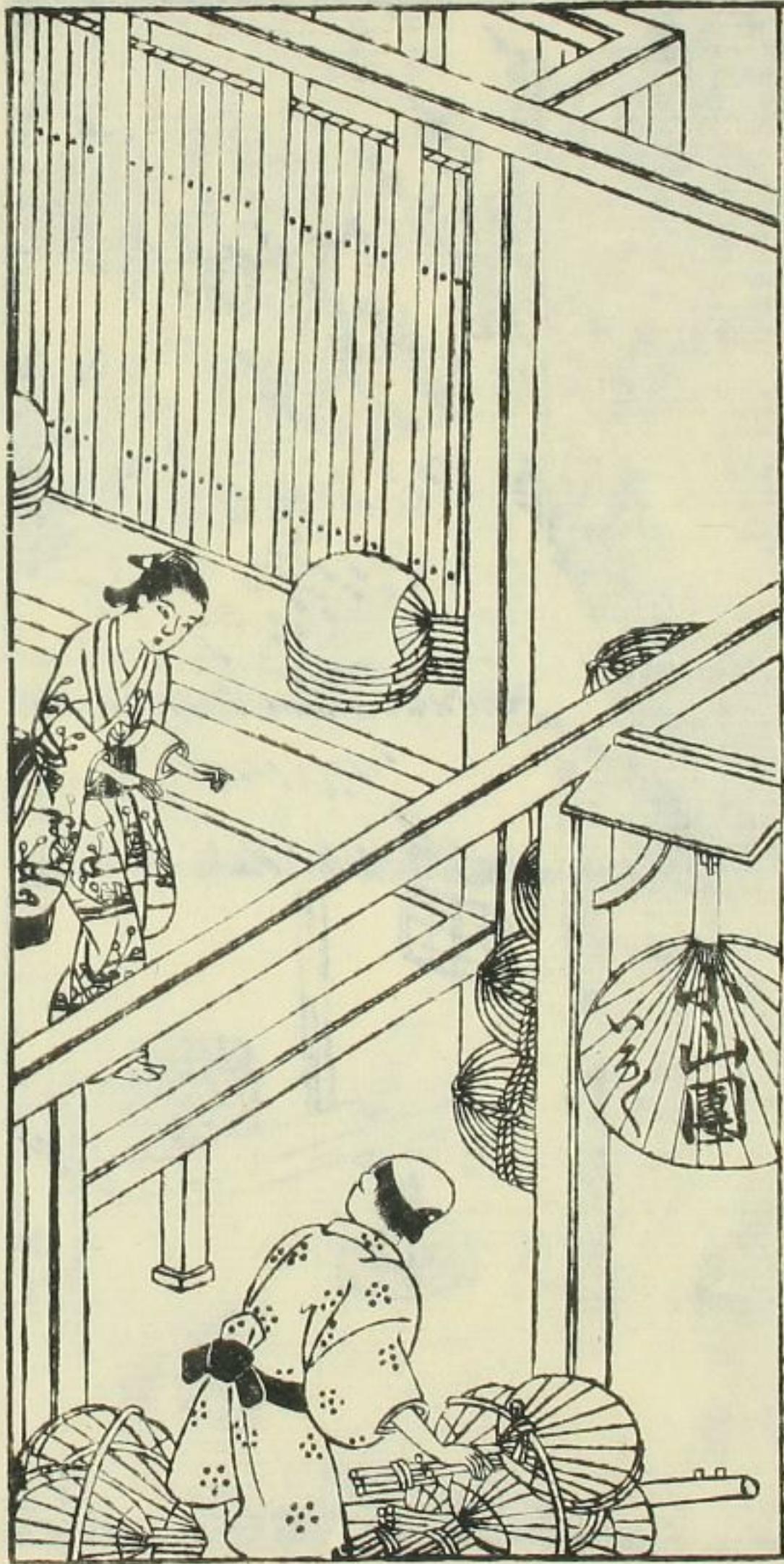
振別有馬日本一の温泉にて四時湯浴の人おかく
無名冒の地ありはあの人竹細工よめとほていろくは

竹筴とほくろおとろるを熟とて名おあり湯浴の人買あかてま
ほくろの強河の府中又竹を熟の名おあるま細工よめとほていろくは
すけはかろは買あかてま



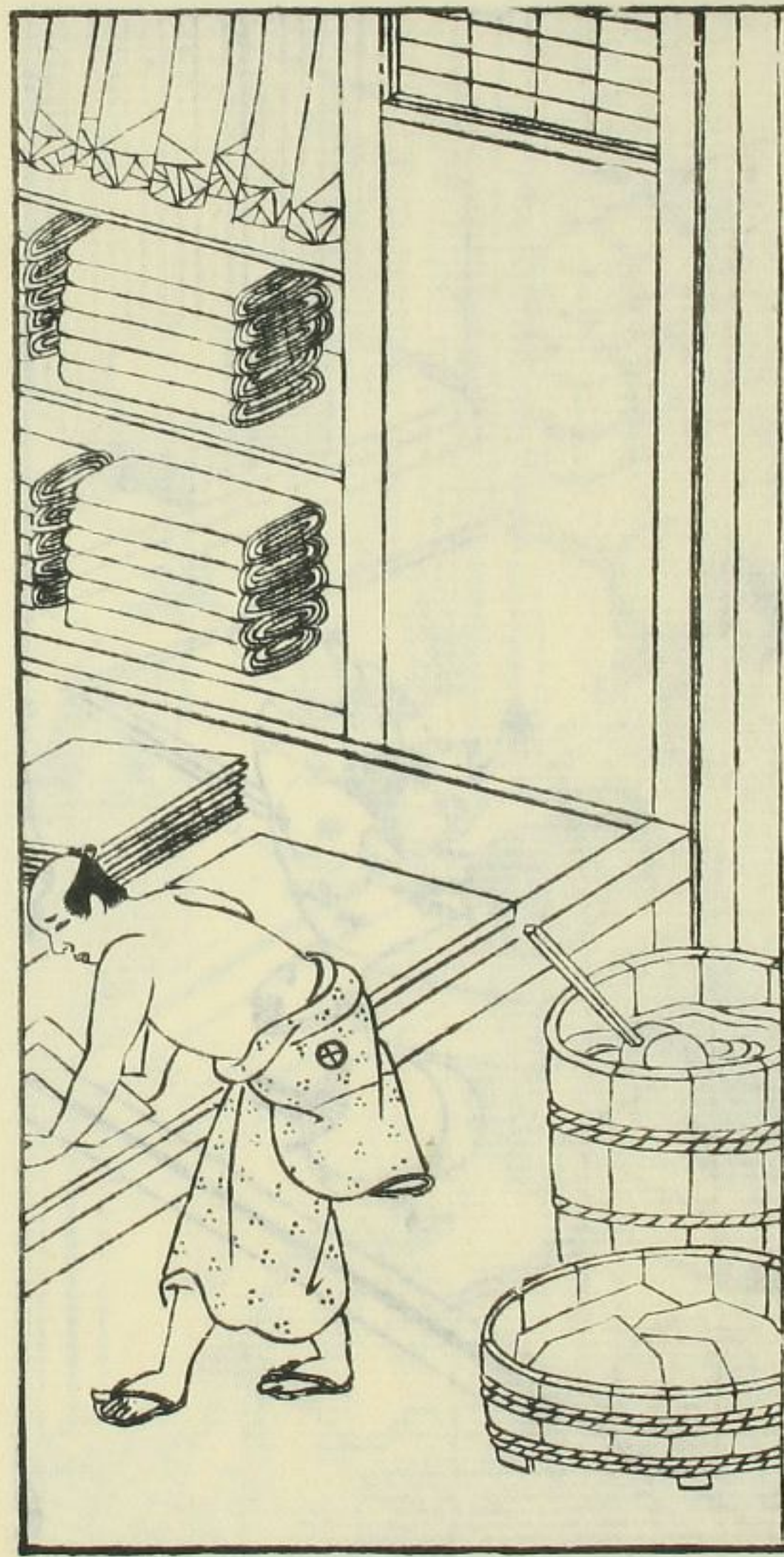


ちんちん 麻の上へは南無と 近きより さらさら ぬれも 濡るも
 よく 煮て 糸を しまと ぐん 行と けい ぬれも 濡るも
 晒して 網を さらし 乾の まるく 刺し 生るの 時れ ぬれも 濡るも
 朱の 糸を 四尺 切と して あまり 糸を 入る 本は 晒あり と 日
 ぬれも 濡るも 地や さらさら ぬれも 濡るも



河内小山園扇

かしらこやうらら
 柄丸竹よてふふららと大いらくら名おめてきん
 ころあはちられ又兼工高雷人のくふもきん
 多し園扇の〇和州きん園扇又名物ふいふとせらーきん花
 李と甘とんそか糸ち飯あけ細工多し〇肥前小山園扇又名名は六月
 ナ五日けあの後園扇と多作の人のあふみやげとて清とあれをねん



奥州仙臺紙子

山形物産録

奥州仙臺紙子
 仙臺の地紙はよく作りし物にて、
 奥州の紙子
 灰汁くひりし紙子と云ふは、
 肥後八代紙子
 大坂松下一周紙子
 肥後八代紙子
 大坂松下一周紙子
 肥後八代紙子
 大坂松下一周紙子

道明寺干飯

河州乃のちいばおまのゆ母天の用基よて今も
此寺ありけきよりあかひい各あんと白米とむ
りげ磨いて細うよりりけよつめて知ん交果寺とひのみひて



早稲田大学図書館

011688995096